行政の窓

原木及び木材製品の流通に関する見通し調査（令和4年6月実施分）

1. 調査対象　道産針葉樹原木の消費量が概ね年間1千m³以上の製材工場及び合板工場（対象工場数：97）
2. 調査実施時期　令和4年6月
3. 調査の内容
（原料在庫状況）前年同時期と比べた認識について選択式（「多い」「少ない」「変わらない」）で調査
（製品の荷動き）前年同時期と比べた認識について選択式（「良い」「悪い」「変わらない」）で調査
4. 企業判断指数の算出方法
［(回答全体のうち「多い」「良い」と回答した企業の比率(%))－(回答全体のうち「少ない」「悪い」と回答した企業の比率(%))］（最大値：100／最小値：−100）
5. 調査結果（回答工場数：87社 ／ 回答率：89.7%）

【①原料在庫状況（トドマツ）】

企業判断指数　（**太字**は調査時点の現状認識、*斜体文字*は見通し）

調査時点	2021.7-9	2021.10-12	2022.1-3	2022.4-6	2022.7-9	2022.10-12
R3.9	**-35**	*-43*	*-41*	-	-	-
R3.12	-	**-53**	*-51*	*-56*	-	-
R4.3	-	-	**-45**	*-54*	*-56*	-
R4.6	-	-	-	**-15**	*-33*	*-50*

原木在荷量（「林産工場動態調査」より）※月平均　(m3)

	2021.7-9	2021.10-12	2022.1-3	2022.4-6	2022.7-9	2022.10-12
当年	147,619	135,152	159,675	-	-	-
(前年)	195,021	148,160	144,450	134,141	147,619	135,152
対前年比	76%	91%	111%	-	-	-

(概況)
原木在荷量は前年を上回る状況。合板需要が落ち着きだしたとの声もあるものの，夏以降は前年を下回る見通し。
(回答企業の主なコメント)
合板向けが一息つき，調達しやすい見込み/当面の原木不足は解消/ストックはあるが秋までに仕入れないと厳しい/品質が悪い/高値で入荷なし/集材量は前年より落ちると予想/トドはカラよりも安定している

【②製品の荷動き（トドマツ）】

企業判断指数　（**太字**は調査時点の現状認識、*斜体文字*は見通し）

調査時点	2021.7-9	2021.10-12	2022.1-3	2022.4-6	2022.7-9	2022.10-12
R3.9	**78**	*64*	*25*	-	-	-
R3.12	-	**64**	*44*	*15*	-	-
R4.3	-	-	**35**	*26*	*5*	-
R4.6	-	-	-	**21**	*14*	*-10*

原木消費量（「林産工場動態調査」より）　(m3)

	2021.7-9	2021.10-12	2022.1-3	2022.4-6	2022.7-9	2022.10-12
当年	231,240	249,282	209,572	-	-	-
(前年)	176,723	192,692	187,454	217,936	231,240	249,282
対前年比	131%	129%	112%	-	-	-

(概況)
原木消費量は引き続き前年を上回る状況。生産順調も，資材高騰や輸入材入荷により夏以降の受注減を懸念する声がある。
(回答企業の主なコメント)
荷動き順調で，生産追い付かず/需要落ち着いてきた/資材不足や高騰など，夏季の製材流通が停滞する恐れ/受注順調も原料不足を懸念/建築材先行きよくない

【③原料在庫状況（カラマツ）】

企業判断指数　（**太字**は調査時点の現状認識、*斜体文字*は見通し）

調査時点	2021.7-9	2021.10-12	2022.1-3	2022.4-6	2022.7-9	2022.10-12
R3.9	**-26**	*-46*	*-44*	-	-	-
R3.12	-	**-65**	*-67*	*-73*	-	-
R4.3	-	-	**-70**	*-76*	*-72*	-
R4.6	-	-	-	**-52**	*-65*	*-71*

原木在荷量（「林産工場動態調査」より）※月平均　(m3)

	2021.7-9	2021.10-12	2022.1-3	2022.4-6	2022.7-9	2022.10-12
当年	175,588	132,958	148,710	-	-	-
(前年)	279,855	229,770	242,886	206,179	175,588	132,958
対前年比	63%	58%	61%	-	-	-

(概況)
原木在荷量は依然として前年を下回る状況。引き続き原木需要は旺盛であり，今後も原木不足が継続する見通し。
(回答企業の主なコメント)
地元の価格では合板向けに太刀打ちできず今後も不足/引き合いが強く，ラミナが作れない/原木不足は今後も継続/価格高騰のため入手できず/合板業界の受け入れが悪くなっており，今後を注視

【④製品の荷動き（カラマツ）】

企業判断指数　（**太字**は調査時点の現状認識、*斜体文字*は見通し）

調査時点	2021.7-9	2021.10-12	2022.1-3	2022.4-6	2022.7-9	2022.10-12
R3.9	**76**	*76*	*45*	-	-	-
R3.12	-	**66**	*48*	*26*	-	-
R4.3	-	-	**42**	*34*	*12*	-
R4.6	-	-	-	**44**	*29*	*0*

原木消費量（「林産工場動態調査」より）　(m3)

	2021.7-9	2021.10-12	2022.1-3	2022.4-6	2022.7-9	2022.10-12
当年	253,036	227,047	212,331	-	-	-
(前年)	203,342	224,155	222,949	247,874	253,036	227,047
対前年比	124%	101%	95%	-	-	-

(概況)
原木消費量は前年並みの状況。引き続き製品受注は多いが，原木不足により十分な対応が困難との声が多い。
(回答企業の主なコメント)
年度内は流通良い見通し/注文は多いが原木不足/道内外合板向けの価格に追随できず，生産を減らすことも検討/製品価格に転嫁しきれていない/製品単価上昇による注文減を懸念

（水産林務部林務局林業木材課林業金融係）